

中津川市地域医療実習 感想文

愛知医科大学 1年生 K

今回の中津川での実習は、初めての長期間の実習であり、また診療所や病院での「医療をみる実習」ではなかったため、これまでの大学病院での実習とは違い、とてもよく地域の特徴を理解することができました。

今回の実習の自分の目標は、「他県の地域医療を知り、愛知県との違いを学ぶ」でした。実際に、5日間をかけて様々な実習をこなすことで、中津川の地域医療を知ることができました。その一方、自分の課題として、「まだまだ愛知県で様々な場所で行われているの地域医療を知らない」ということが出てきました。そのため、愛知県の地域学生としても、またこれから先に地域医療に従事していく者としても、愛知県の地域医療も沢山学んでいかなければならないと感じました。

今回の実習で、特に印象に残ったことは火曜日の夜に参加させていただいた介護保険勉強会と、間渕先生とお話しさせていただいたドクターカー実習、つくしんぼでの親御さんとの座談会が印象に残りました。

介護保険勉強会では、そもそもよくわからなかった「地域包括ケアシステム」がどのようなものなのか勉強会に参加することで理解することができました。たまたまこのような勉強会が行われていたため、参加することができて非常によかったです。地域でのシステムを地域住人が知らないということが多かったため、地域住民がもっとこの会に参加することができたらさらに有意義なものになると感じました。

ドクターカー実習では、間渕先生からドクターカーシステムをなぜ岐阜の地域に持ち込まれたのか、どのような思いで働いていらっしゃるのか、など様々な実体験を用いてお話を伺うことができたため貴重な体験ができました。機会をいただきありがとうございました。

病院での実習ではなかなか障害のあるお子さんを育てられている親御さんの生の声を聞くことができないが、つくしんぼでの座談会では聞くことができて、とても有意義なお話を聞くことができて良かったです。

普段の地域医療にまつわる実習では、福祉などの医療と少し離れた分野についても学ぶことができないが、今回の実習では地域医療に欠かすことのできないが、医療とは少し離れた分野を学ぶことができたため、本当に有意義な実習になりました。

今回の実習では、とても親切な指導医やスタッフ、地域住民に恵まれ貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。